

小中学校の組み体操事故件数 兵庫が2年連続最多

小中学校の件数	児童生徒1万人に対する負傷人数
①兵庫 601	①鳥取 15.8
②大阪 534	②兵庫 13.5
③埼玉 376	③香川 12.3
④東京 356	④神奈川 12.2
⑤福岡 356	⑤滋賀 9.1
⑥愛知 269	⑥福岡 8.6
⑦神奈川 209	⑦和歌山 8.5
⑧千葉 176	⑧岡山 7.9
⑨広島 167	⑨大阪 7.82
⑩長野 165	⑩埼玉 7.8

※日本スポーツ振興センターの資料から、西山豊教授が算出

神戸新聞NEXT 

兵庫県内の小中学校で2015、16年度に起きた組み体操の事故件数が、2年連続で全国最多だったことが13日、大阪経済大の西山豊教授（数学）の調査で分かった。15年度は857件（うち骨折265件）、国や県が安全対策を強化した16年度もなお601件（同173件）に上った。児童生徒1万人に対する負傷率も47都道府県中、15年度が1位、16年度2位となっており、さらなる対策が求められている実態が浮き彫りになった。

西山教授が、日本スポーツ振興センター（東京都）から、学校で児童生徒が負傷した場合に医療費が支払われる「災害共済給付」の件数データを得て算出した。

組み体操による事故は、15年度に全国で7702件（うち骨折2057件）あり、その約1割を兵庫県が占めた。負傷率も全国一で、全国平均7・7人に対し、兵庫県は18・9人と突出。2番目は大阪府765件（同223件）、3番目は東京都667件（同205件）だった。

全国で相次ぐ事故を受け、国や各教育委員会は対策に乗り出し、16年度は全国で4967件（同1246件）と、前年度比約35%減。組み体操をダンスなどに変更する動きも影響したとみられる。

兵庫県教委は16年3月、四つんばいの姿勢で積み重なる「ピラミッド」などで段数制限はせず、安全最優先の指導を求める通知を各校に出した。市町教委もそれぞれ独自の対策を打ち出した。その結果、16年度の事故件数は前年度から200件以上減少したが、なお全国最多だった。負傷率は鳥取県の15・8人に次いで、兵庫県は13・5人で全国2番目の多さだった。

兵庫県教委は「重傷事故が起こらないよう呼び掛けているが、なくなっていないのは残念。本年度の状況を調べ、改善に努める」としている。（上田勇紀）